

研修5日目。ずっと続いていた暑い日差しが、ようやく和らいできました。本日は、ボストンの企業を訪問しました。昨日は移動中に照りつける直射日光にめげそうになりましたが、本日はさほどきつくありません。

訪れたのは、CIC (Cambridge Innovation Center) という、ビジネスマンや研究者、政府機関などが集まるワーキングスペースです。MIT (マサチューセッツ工科大学) の卒業生が、スタートアップ企業が集まれる場所を創設し、イノベーションを生み出す場所として開放しました。一人用の小さなオフィス(電話ボックスサイズ)から、大人数で会議が出来る部屋、部屋の真ん中に卓球台が置かれた部屋など。カラフルでデザイン性にあふれたオフィスは、一見するとショールームのような華やかさがあります。起業したばかりの駆け出しから、既に収益を上げている会社まで、多くの人が、働く空間とアイディア、コネクションを求めてCICに集まります。この場でビジネスがどう発展していくのか、高校生には少しいメージがつきにくかったかもしれません。しかし、ここで働く大人達やクールなオフィスを見て、その迫力に圧倒されたようでした。

CIC訪問と時を同じくして、近くにあるMITの生協(COOP)にも行きました。昨日訪れたハーバード大学とは異なる雰囲気に触発されて、理系生徒はお土産のキャンパスグッズを真剣に吟味しました。化学式や数式がデザインされた文房具やTシャツを購入し、満足そうにその場を後にしました。

夕食の後、特別ゲストをお招きしてのレクチャーが始まりました。お越し頂いたのは、リーダーシップ・コーチコンサルタントの杉山賀津子氏です。杉山氏は、異文化研修トレーナー、日米(言語・文化)通訳としてご活躍する一方、企業や大学生に対してリーダーシップ研修を実施されています。杉山氏とのセッションの始まりは「逆自己紹介」からでした。杉山氏を知るために、私たちが彼女に質問を投げかけます。

「なぜアメリカに来たのか」「受け入れがたいと思った異文化体験は」「日本人が学ぶべきアメリカ人の国民性は」多くの質問に対して、杉山氏は一つひとつ丁寧に答えてくださいました。その答えから、ユーモアと知性、行動力を感じます。レクチャーでは、リーダーシップの定義「益よりも害を与えることがないように、自分の内部、自分の意識の中で何が起きているのか特に責任を持つべき人である」を聞き、これまで考えていたリーダー像とは異なる内容に驚いていました。また、「自分らしさ」を大切に、強力なビジョンを作成する6つの「P」Personal/ Present/ Positive/ Passionate/ Purposeful/ Pithyを教えてくださいました。レクチャーの最後に、杉山氏から、「我々は自分の期待値レベルに上がるのではなく、自分が日常している訓練のレベルに落ちるのである」というメッセージを頂きました。

レクチャーが終わった後、寮で行われているイブニングアクティビティに途中から合流しました。本日はタレントショーです。留学生が各々の特技をステージで発表します。中部生からは、4組7名が参加しました。ボストン大学に到着して日々のアクティビティを確認した際に、タレントショーがあることを知りました。最初は参加など考えなかったのですが、留学生との交流を通して、また先生からの後押しもあり、参加を決意しました。柔道、剣道、ダンス、腹筋ローラーと、バラエティに富んだ内容です。練習に練習を重ね、必要な道具を現地で調達し、いざ本番。留学生やスタッフから、拍手喝采。非常に盛り上がりました！

この研修を通して、なりたい自分を常に意識してきました。しかし留学生との交流や、ボストンに住む人々と接することで「こんなことも出来ないのか」と落ち込むこともありました。しかし、想像を超える様々な異文化体験を通して、毎日たくましく成長を遂げています。ボストンでの生活も、残すところ二日です。MITのキャンパスツアーに班別自主研修など、学ぶチャンスはまだあります。皆が思い切って挑戦できるよう、微力ながら背中をおさせて頂きます。以上、本日のご報告とさせていただきます。

CIC 訪問



訪問前のアイスブレイク



エントランス①



エントランス②



CIC スタッフからのレクチャー





杉山氏からのレクチャー



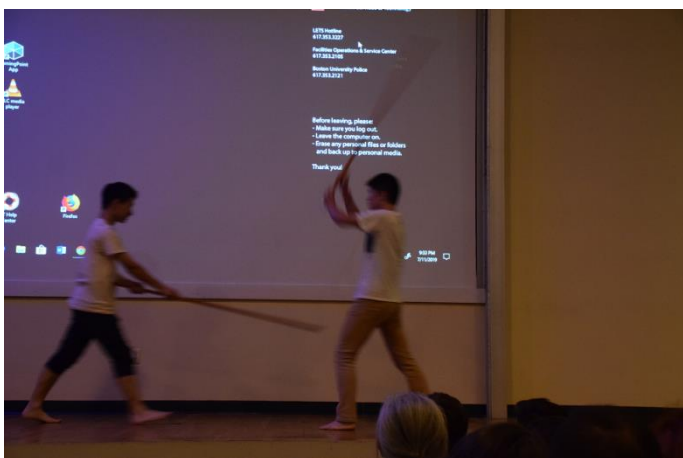
杉山氏と



タレントショー：留学生と柔道



タレントショー：剣道を披露



タレントショー：衣装を準備してダンス！



タレントショー：筋肉を披露

